

株主の皆様へ

J F E
だより Winter

第17期 中間

2018年4月1日 ▶ 9月30日

社長メッセージ

Top Message

激変する経営環境のなか 収益力の強化に取り組んでまいります

株主の皆様には日ごろからJFEグループへの
温かいご理解とご支援を賜り、
心より御礼申し上げます。
初めに2018年度上期の決算の概要や、
通期の見通しについてご説明いたします。

代表取締役社長 (CEO) 林田 英治



2018年度上期の業績概要

今年度上期のわが国経済は、相次ぐ自然災害による経済活動への影響があったものの、輸出や企業収益が堅調に推移するとともに、設備投資の増加もあり、緩やかに回復しました。海外経済は、米国を中心として全体的に緩やかな回復基調となりましたが、保護主義的な政策による世界的な貿易摩擦の激化や、中国をはじめとする新興国経済の下振れリスク、地政学リスクの高まり等

により、先行きは不透明な状況が続いています。

鉄鋼事業においては、金属等の副原料価格、資材費、物流費等の上昇により、コストが大幅に増加したものの、鋼材価格の改善や継続的な収益改善に取り組んだ結果、1,141億円の経常利益となりました。

エンジニアリング事業においては、前年度からの高水準な受注実績を受け、売上高が増加したことにより、69



JFE ホールディングス 株式会社

JFE Group

億円の経常利益となりました。商社事業においては、海外グループ会社の収益拡大や国内外の販売単価の改善により、191億円の経常利益となりました。

以上の結果、グループ連結での上期の経常利益は1,435億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,104億円となり、前年同期に比べそれぞれ421億円、234億円増益となりました。

2018年度の業績見通し

2018年度の連結業績は、売上高4兆円、経常利益2,500億円、親会社株主に帰属する当期純利益1,750億円となり、前年度に比べ増収・増益となる見通しです。

鉄鋼事業は、国内では、高水準にある自動車の生産や都市再開発案件の本格化を受け、総じて需要は堅調に推移しています。海外についても、自動車分野や建設分野をはじめ、全般的に堅調な需要が続いています。しかしながら、JFEスチール(株)の単独粗鋼生産量は、操業トラブルや豪雨等の自然災害の影響により前年度を下回る2,800万トン程度となる見通しです。また、前年度に比べ、副原料価格、資材費・物流費等の上昇により大幅に製造コストが増加しております。諸物価上昇の影響に対しては、持続的成長を可能とする収益水準の確保に向け、お客様にご理解を得られるよう丁寧に粘り強く説明しながら、販売価格への反映に取り組んでまいります。また、第6次中期経営計画で掲げたコスト削減

1,050億円(3ヵ年)の達成に向け、引き続き活動を推進してまいります。このような取り組みのもと、鉄鋼事業の通期の経常利益は1,900億円となる見込みです。

エンジニアリング事業は、環境分野を中心に受注は高水準を維持しており、経常利益は220億円となる見通しです。

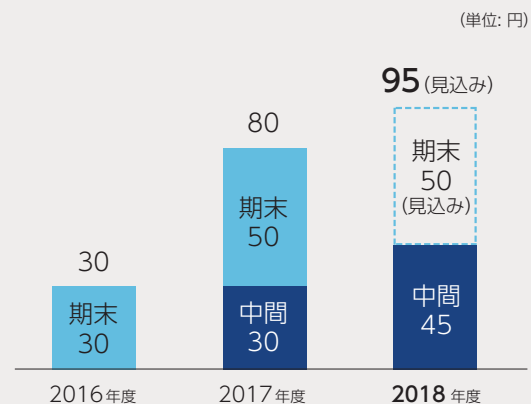
商社事業は、上期の海外グループ会社の収益改善や国内外の販売単価の改善により、経常利益は350億円と高い収益水準となる見通しです。

株主の皆様へ

こうした収益状況を受けまして、中間配当につきましては1株当たり45円とさせていただきます。また、期末配当につきましては50円を見込んでおり、これにより年間では95円となる見込みです。

当社グループは引き続き収益力の強化とすべてのステークホルダーの皆様にとっての企業価値最大化に取り組んでまいります。今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

1株当たり年間配当額



	2017年度通期	2018年度上期	2018年度通期見通し
	(単位: 億円)		
売上高	36,786	19,072	40,000
経常利益	2,163	1,435	2,500
親会社株主に帰属する当期純利益	1,446	1,104	1,750
総資産	44,409	45,010	—
純資産	20,099	20,753	—
	(単位: %)		
ROS ^{※1}	5.9	7.5	6.3
ROA ^{※2}	5.2	6.7	5.8
ROE ^{※3}	7.6	11.2	8.7
自己資本比率	43.9	44.7	—
D/Eレシオ ^{※4}	58.1	57.8	60.8

※1 ROS=経常利益/売上高

※2 ROA=(経常利益+支払利息)/総資産 上期ROA=(経常利益+支払利息)×2/総資産

※3 ROE=親会社株主に帰属する当期純利益/自己資本 上期ROE=親会社株主に帰属する当期純利益×2/自己資本

※4 D/Eレシオ=借入金・社債等残高/自己資本(格付評価上資本性を併せ持つ負債について、格付機関の評価により、資本に算入)

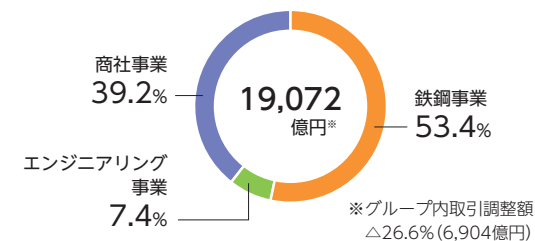
Point ①

▶ 売上高の事業別内訳

(単位: 億円)

	2017年度通期	2018年度上期	2018年度通期見通し
鉄鋼事業	27,154	13,866	28,800
エンジニアリング事業	3,913	1,928	4,800
商社事業	19,079	10,182	21,200
調整額	△13,361	△6,904	△14,800

▶ 2018年度上期売上高構成比



Point ②

▶ 経常利益の事業別内訳

(単位: 億円)

	2017年度通期	2018年度上期	2018年度通期見通し
鉄鋼事業	1,988	1,141	1,900
エンジニアリング事業	193	69	220
商社事業	330	191	350
調整額	△349	32	30

大阪大学 接合科学研究所に JFEウエルディング協働研究所を設立

自動車の軽量化や建築物の高層化などが進展するなか、より硬くて粘り強い、そして溶接でつなぎやすい鉄鋼材料へのニーズが高まっています。JFEスチール(株)と国立大学法人大阪大学は、溶接(ウエルディング)に関する課題解決やメカニズム解明、イノベーションの創出に向けて、2018年4月にJFEウエルディング協働研究所を設立しました。溶接の果たす役割や、この研究所を設立した目的について、同社スチール研究所主席研究員、JFEウエルディング協働研究所副所長の大井健次がご説明します。

熊本城天守閣復旧整備事業に高施工性CO₂アーク溶接技術「超狭開先J-STAR®溶接」を適用



熊本城天守閣の復旧に、独自の「超狭開先J-STAR®溶接」が採用されています。大天守6階の鉄骨造を支える鉄柱の溶接に適用することで、溶接の熱による柱の変形の抑制と、施工期間の短縮が可能になりました。

溶接技術は、お客様の新しいものづくりや 生産効率の向上に貢献する

自動車、家電製品、船舶、橋梁、ロケット、発電プラントなど、世の中にある多くのものは鉄鋼材料を溶接でつないで作られています。自動車産業においては燃費の改善に向けた軽量化、造船業においては輸送効率改善のための船舶の大型化といった変化が起きています。ものづくりの現場において、こういった変化に対応するため加工の難しい材料が増えてきたことによって、より高度な溶接技術が求められています。溶接でつないだ部分が弱いとそこから割れが生じて大きな事故につながるため、製品の安全性を確保するためには複数の鉄鋼材料(母材)をあたかもひとつの材料であるように溶接することが必要です。また、自動車の製造工程では数千箇所、船舶では何千メートルにもわたって溶接する必要があり、スピーディーに溶接

「超狭開先J-STAR®溶接」とは?

独自に開発した溶接施工技術。溶接ノズル構造を最適化することで、溶接を行う母材間に設ける溝(開先)の断面積を従来の約3分の1まで小さくすることが可能に。

できることも重要です。私たちは鉄の特性を熟知しており、鉄鋼材料と溶接技術を一体化した課題解決への提案をすることで、お客様の新しいものづくりや生産効率の向上に貢献しています。

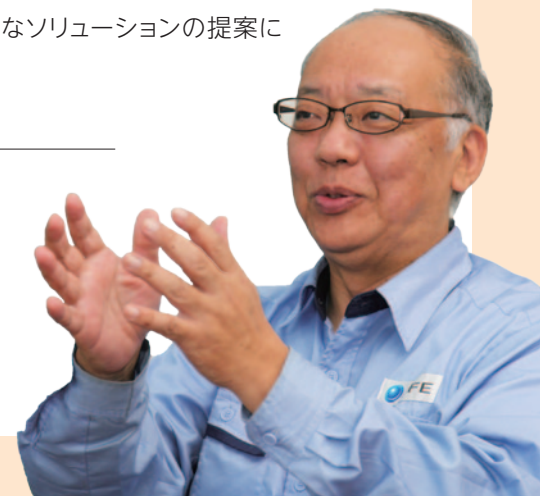
大阪大学との連携で、 新たな 接合技術の創出 を目指す

近年、新興国などにおいても、最新設備を導入することによって、性能の高い鉄鋼材料が生産できるようになってきました。グローバル競争を勝ち抜くため、単に鉄を提供するだけではなく、溶接技術と合わせて提案することは、お客様に当社の鉄鋼材料を選んでいただくための大きなポイントになっています。

当社は従来から溶接技術の重要性に着目し長年にわたり研究開発に注力しており、日本で唯一の溶接工学科を発祥とし、世界屈指の溶接分野の総合研究所を持つ大阪大学との連携を深めてきました。今回、新たに設立したJFEウエルディング協働研究所では、学術的な視点から溶接のメカニズムを解明することで、新たな溶接技術の創出や、新たなソリューションの提案につなげていきます。

JFEスチール(株)
スチール研究所 主席研究員
JFEウエルディング協働研究所 副所長
(大阪大学 接合科学研究所 招聘教授)

大井 健次



業種を超えたアライアンスで 首都圏最大の リサイクルカンパニーが誕生

JFEエンジニアリング(株)と東京電力燃料&パワー(株)は、再生可能エネルギーや上下水・廃棄物処理などのインフラサービス分野への事業拡大に向けて、2017年2月に業種を超えた戦略的アライアンスを締結し、共同事業の実施に向けた検討を進めてきました。

この提携の成果として、両社の子会社であるJFE環境(株)と、東京臨海リサイクルパワー(株)を経営統合することを決定しました。

JFE環境は、千葉市、横浜市、川崎市に、また東京臨海リサイクルパワーは、東京都江東区に廃棄物焼却処理施設を有しており、2019年4月に設立される統合会社は、首都圏最大の廃棄物焼却処理力(1,390トン/日)と、26,390kWの発電能力を持つリサイクルカンパニーとなります。両社の施設を一体運営することにより、稼働率向上や運転コストの低減等が期待できます。統合によるシナジー効果を最大限に活用し、首都圏における競争力を高め、将来的には業界トップクラスの企業となることを目指します。

今後もJFEエンジニアリンググループは、「^{もと}くらしの礎を創る くらしの礎を担う」企業として資源循環型社会の形成に貢献していきます。

統合会社 —総合リサイクル事業を展開—

所在地	従業員数	売上高	※2017年度 の両社合算
横浜市鶴見区弁天町3番地1	930人*	346億円*	

- 医療廃棄物処理
- PCB処理
- 廃棄物発電・売電
- 食品リサイクル・バイオガス発電
- プラスチックリサイクル
- 蛍光灯リサイクル
- 家電リサイクル

JFEグループと東電燃料&パワーグループのリソースを活かし
首都圏のリサイクルサービスを一手に担う

JFEグループ		東電燃料&パワーグループ	
JFE環境	多種多様なリサイクル事業を全国展開 事業拠点：神奈川県横浜市、川崎市、千葉県千葉市、 広島県福山市、宮城県仙台市	東京臨海リサイクルパワー	首都圏トップクラスの廃棄物発電事業・ 医療廃棄物処理事業を展開 事業拠点：東京都江東区



海外での事業拡大を見据え グローバル人材の育成に注力

ビジネスの国際化が進展するなか、JFEグループは、グローバル人材の育成を通じた企業価値向上に取り組んでいます。なかでも海外事業の比率が高いJFE商事(株)では、仕入れや販売が海外のみで完結するビジネスが増えてきました。そこで、入社8年目までの若手社員全員に対して最大2年までの海外派遣制度を設けるなど、グローバル人材の育成に積極的に取り組んでいます。今回は、タイで1年間の派遣研修を経験した財務部門の社員に、海外で学んだことや今後の抱負について聞きました。

JFE商事(株)
財務経理部 財務企画室
課長代理 **大村 遼**

- 2008年入社、財務室(現・財務企画室)に配属後、2014年6月にタイのCentral Metals (Thailand) Ltd.に研修派遣として赴任。2015年7月より財務企画室に復帰。
- 週末は妻と分担して4人の娘の習い事の送迎。年間7・8回は家族とともにキャンプへ。季節を肌で感じられるのが醍醐味。

部門を超えて主体的に課題に チャレンジしていきたい

タイでの研修は自分を成長させてくれた貴重な経験でした。駐在経験を通じて、文化によって仕事の進め方が違うことや多くの価値観があることを知りました。人前で注意することを嫌うという文化を知らず、現地スタッフのミスを指摘してしまい、スタッフがその場で大泣きしてしまうということもありました。自分の常識が当然通用すると思いついでいたことを深く反省し、徐々に信頼関係を深め、仕事だけでなくプライベートでも垣根なくやり取りすることができるようになりました。この経験から、現地の文化・考え方を理解するためには、自分で壁を作ることなく、現場に積極的に溶け込むことが不可欠だと痛感しました。

帰国後は、国内外の投資案件に関する営業部門のサポートや資金管理を行っています。財務部門には、投資に潜むリスクの洗い出しや、より資金効率を重視した提案が求められます。今後、当社が海外での事業拡大を目指すなかで、M&A等の投資案件のサポートなどの様々な金融機能を果たしていくためには、海外の最前線で身をもって経験してきたことが大きな力になると感じています。現地とのコミュニケーションを通じてその実情を十分に理解し、部門を超えて主体的に課題にチャレンジすることで、投資先、さらにはその先のお客様に貢献していきたいです。



ジャパン マリンユナイテッド株式会社

次世代環境対応型タンカー “KIMOLOS”を建造

ジャパン マリンユナイテッド(株)(以下JMU)は、2018年5月、津事業所(三重県)で建造した次世代環境対応型タンカー“KIMOLOS”を、海外船主に引渡しました。

本船は、JMUが豊富な建造実績を誇るスエズマックスタンカーの次世代船として開発され、最新の解析技術によって開発した低抵抗・高効率の船型を採用することで推進性能の向上を図るとともに、**独自の省エネデバイス Super Stream Duct[®]**や高効率プロペラを搭載することで大幅な燃費の改善を実現しました。また、大気汚染を引き起こすNOx(窒素酸化物)などの排出規制に高いレベルで対応しているほか、海洋生態系への影響を抑制するためのバラスト水処理装置も装備しています。さらに、温室効果ガス排出の国際ルールに対しては2020年以降の契約船に適用されるレベルに他社に先駆けて適合し、いち早くお客様のニーズに応えています。



Super Stream Duct[®]とは?

船尾近くに生じる縦渦を回収して推進力に加えることで、燃費を改善する省エネ装置。

スエズマックスタンカーとは?

スエズ運河を満載状態で通航できる最大サイズのタンカーのことです。

- 主要寸法: 全長274.30m×幅48.00m×深さ23.15m
- 載貨重量: 159,159トン
- 航海速力: 14.65ノット
- 総トン数: 82,602トン
- 定員: 28名

JFE GROUP REPORT2018 (統合報告書)を創刊

JFEグループの中長期的な価値創造ストーリーを、すべてのステークホルダーの皆様にご理解いただくことを目的に、経営戦略、財務情報に加えて、ESG情報などの非財務情報を統合的に整理して一冊にまとめています。



HOME ▶

株主・投資家情報 ▶

IR資料室 ▶

JFE GROUP REPORT

<https://www.jfe-holdings.co.jp/investor/library/group-report/index.html>



CSR報告書2018を発行

本報告書では、JFEグループの事業活動における環境側面および社会的側面について基本的な方針・本年度の活動内容および実績を報告しています。



HOME ▶

CSR(環境・社会)

▶ データダウンロード

<https://www.jfe-holdings.co.jp/csr/data/index.html>



会社概要／株式の現況(2018年9月30日現在)

名称(商号)	JFE(ジェイ エフ イー) ホールディングス株式会社 [英文名称: JFE Holdings, Inc.]
本店所在地	〒100-0011 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 電話 03(3597)4321(代表)
設立	平成14年9月27日
資本金	1,471億円
発行可能株式総数	2,298,000,000株
発行済株式総数	614,438,399株
株主数	210,199名

株主メモ(2018年9月30日現在)

決算期	3月31日
定時株主総会	6月に開催
定時株主総会および 剰余金の配当基準日	3月31日
中間配当基準日	9月30日
1単元の株式の数	100株
株主名簿管理人および 特別口座管理機関	〒103-8670 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告の方法 【アドレス】	電子公告 https://www.jfe-holdings.co.jp/

経営体制(2018年9月30日現在)

■ 取締役		■ 監査役	
代表取締役社長	林田 英治	監査役(常勤)	津村昭太郎
代表取締役	柿木 厚司	監査役(常勤)	原 伸哉
代表取締役	岡田 伸一	監査役(社外)	大八木成男
取締役	織田 直祐	監査役(社外)	佐長 功
取締役	大下 元	監査役(社外)	沼上 幹
取締役(社外)	吉田 政雄		
取締役(社外)	山本 正巳		
取締役(社外)	家守 伸正		

■ 執行役員

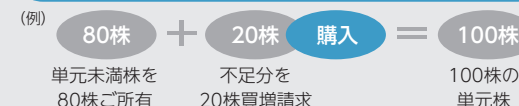
社長	林田 英治	CEO(最高経営責任者)
副社長	岡田 伸一	CFO(最高財務責任者) 総務部、企画部、IR部および財務部の統括
常務	藤原 弘之	総務部および企画部の担当
常務	田中 利弘	IR部および財務部の担当

株式のお手続きに関するお知らせ

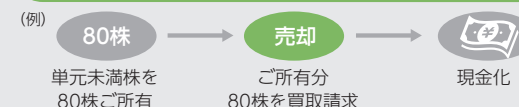
単元未満株式の買増・買取制度について

100株に満たない株式(単元未満株式)は市場では売買することはできません。以下の方法にてご所有の単元未満株式を整理することができます。

買増請求 (買い足して単元株 (100株)にする場合) 買



買取請求 (売却して現金化する場合) 売

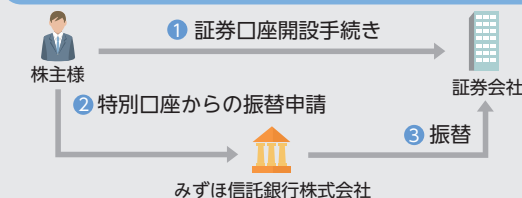


証券会社等に口座を開設されている株主様は、お取引証券会社等にご連絡ください。それ以外の株主様は、みずほ信託銀行株式会社証券代行部(下記)にご連絡ください。

特別口座から証券会社等の口座への振替について

特別口座に記録されている株式については、特別口座のままでは売買できません(単元未満株式の当社への買増・買取請求を除く)ので、証券会社に取り引口座を開設して、開設された口座に株式を移し替える手続き(振替申請)をお勧めします。

振替申請の手続き



●お問い合わせ先

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

☎0120-288-324(平日9:00~17:00)

知ってる?
JFE

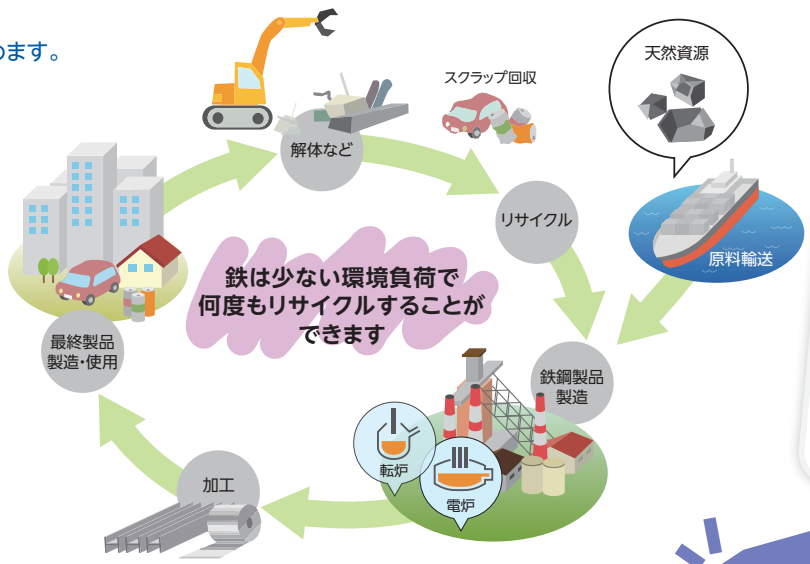
つくる とき、 使う とき、 リサイクル するとき、

鉄は環境にやさしい素材です。

エネルギー効率
No.1

鉄鉱石の埋蔵量は約1,900億トン、地球の金属資源の85%を占めます。
この豊富な埋蔵量を有する鉄鉱石を還元してつくられる鉄は、安定供給が可能であることに加え、何度も繰り返してリサイクルできることから、自動車や船舶、建築物や橋梁などの素材として長年にわたって社会の発展を担っており、文明社会の基盤として欠かすことのできない重要な素材です。
また近年では「つくる時、使う時、リサイクルするとき」という、**ライフサイクル全体で評価を行うLCA*の視点からも、環境にやさしい素材として注目を集めています。**

*LCA(Life Cycle Assessment)とは、製品やサービスのライフサイクル全体および各工程(資源採取→原料調達→製品生産→利用・使用→スクラップ回収→リサイクル)の環境負荷を把握する手法です。環境負荷の大きい工程を特定して改善を行ったり、他の製品などとの環境負荷の大きさを比較したりするために使われます。

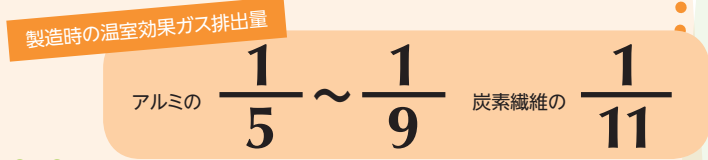


鉄は少ない環境負荷で何度もリサイクルすることができます

つくる

鉄鋼製品を製造する際のCO₂などの温室効果ガス排出量は、アルミの5~9分の1、炭素繊維の11分の1程度と、これらの素材に比べて**圧倒的に少ない環境負荷でつくる**ことができます。

今後は、新興国の経済発展などに伴い、鉄に対するニーズはさらに高まっていくことが予想されますが、日本の鉄鋼業は、鉄鉱石から新たな鉄をつくる工程において、世界で最も低い環境負荷で生産できる省エネルギー技術を確認しています。



※単位重量当たりの温室効果ガス排出量を鉄を1として比較
出典: Steel Recycling Institute

使う

高機能鋼材による**高強度化・軽量化**によって、**最終製品の環境負荷低減に役立ててきました**。例えば、強度を保ちながら板の厚みを薄くしたハイテン材(高張力鋼板)は、自動車車体部品へ使用されることで衝突性能を維持したまま大きな軽量化効果が得られ、CO₂排出量の削減に貢献しています。



リサイクル

リサイクルすることが困難だったり、リサイクルをすると性質が変化(劣化)してしまったりする素材が多いなかで、**鉄は高い品質を維持したまま、何度もリサイクルすることができます**。また、鉄は磁石を使うことで簡単に分別できることや、リサイクルシステムが確立していることから、他の素材と比べて高いリサイクル率を誇ります。身近な鉄鋼製品であるスチール缶のリサイクル率は94%(2016年度)となっています。



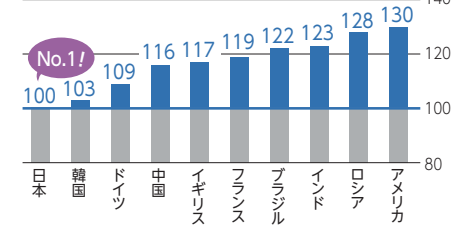
スチール缶のリサイクル率
94%

出典: スチール缶リサイクル協会

日本の鉄鋼業は

省エネルギー技術の開発・普及をはじめとする長年の環境保全への取り組みの結果、日本の鉄鋼業(転炉鋼)は世界の鉄鋼主要国のなかで最も低い環境負荷で鉄鋼を生産することができます。

■日本を100とした指数(2015年)



出典: 公益財団法人地球環境産業技術研究機構 (RITE)